



海外に子会社を持つ日系企業様の会計ソフトウェアの決定版！



「日本語・英語+α」の3ヶ国語に対応、クリック一つで簡単に表示言語を切り替え。海外に子会社を持つ企業にとって、とってほしかった会計ソフトウェア！日々の仕訳入力・元帳管理・財務レポートの印刷のみならず、固定資産の管理・原価計算（オプション）などの会計ソフトウェアには必ず必要な機能を備えておりながら、日本本社と海外子会社とがそれぞれの母国語でコラボレーション作業ができるスグレもの！

現地子会社の会計スタッフは現地語で仕訳情報を入力

MKSにおまかせ！

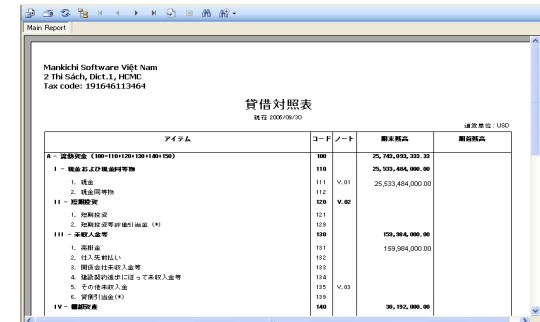
多言語対応のMKSをご利用いただければ、現地子会社の会計スタッフの方は現地語で（たとえば、中国語、ベトナム語、タイ語など）仕訳情報の入力や財務レポートの作成などすべての操作を行うことが可能です。また、勘定科目も3ヶ国語対応になっておりますのでデータ入力の間違いや仕訳の誤解などはほとんどなくなります。



現地子会社の会計データをそっくりそのまま日本の親会社でチェック

MKSにおまかせ！

MKSには「全データのIMPORT/EXPORT機能」がございます。従いまして、現地子会社のMKSのデータをEXPORTしていただき、添付ファイルで日本の親会社に送っていただければ、日本の親会社の方はそのEXPORTされたファイルを日本側にあるMKSにIMPORTすることができます。こうすることにより、日本の親会社の会計担当の方は子会社の全データを「日本語で」チェックをすることができます。そして、手直しをしたデータはEXPORTをして現地子会社に送ることも可能です。



海外子会社との連結決算にもすばやく対応！（OPTION）

MKSにおまかせ！

MKSのオプション機能になりますが、現地子会社のすべての仕訳情報を日本本社の勘定に割り振り、かつ日本本社の財務諸表のフォーマットに合わせて印刷をすることも可能です。

◎外国に子会社を持つ企業にお勧め！

会計ソフトウェアとしてMKSをご利用いただくことによりまして、海外の子会社側の財務状況を瞬時かつ正確に把握することができ、決算時の際などに大慌てをすることはなくなります。

また、MKSをご利用いただくことによりまして、現地子会社側のスタッフは現地語による仕訳入力や財務レポートの作成操作が可能、日本本社側も日本語による全データのチェックが可能となります。お互いの母国語をベースにすることにより、両者間のミスコミュニケーションの削減が図れ、精度の高い会計情報の共有が可能となります。



お問い合わせは info@mankichisoftware.net まで。

多言語対応会計ソフトウェア「MKS」をご使用になられます際には、Microsoft SQL2005のインストールが必要です。また、Windows2000以上、サービスパックも最新のものが必須となります。